



伊藤寿郎さん
同事務局長

人口減少に負けない地域を協働で

「協働のチカラにより地域の価値を高める」を理念に09年設立。中田町石森に拠点を構え、地域づくり、地域コミュニティ支援、創業支援など、多岐にわたって活動を展開している。

毎月第1日曜日、石ノ森章太郎ふるさと記念館協賛で「石森いろいろ市場」を開催。物販やワークショップ、屋台、ミニライブなど、その名の通り、いろいろなものにぎわいを創出している。「お金を稼いだらばなりません」と語る。

特定非営利活動法人 故郷まちづくりナイン・タウン



「石森いろいろ市場」には、アクセサリー、惣菜、生活雑貨やカイロブラクティックなど、さまざまな店舗が並ぶ。市場開催日には、佐沼高生徒がボランティアで運営支援に訪れている。



及川豊二さん
浅水ふれあいセンター長



沼倉裕幸さん
浅水地区集落支援員

安全・安心と「ゆづるの里」が目玉

地域づくり計画策定の際、10歳以上の地域住民全員に「10年後に変わると大変なこと」をテーマにアンケートを実施。及川センター長は「うちの計画は、決して背伸びをせず、地域の特性を生かし、気軽に楽しめるものにした」と話す。集う環境整備、人口減少対応、健康長寿、一人暮らし対応事業など、安全・安心に生活することが大きな目的だ。

事業の目玉は、コミュニティビジネスで始めたそば屋「ゆづるの里」。そば打ち教室から発展し、毎週日曜日に営業している。屋号は、フィギュアスケーター屋生結弦選手ゆかりの地であることから命名。市内だけではなく、市外からも数多く来店し、リピーターも徐々に増えている。沼倉支援員は「現段階では、経費などで利益は出ていません。料理の腕と評判を上げて、羽生選手にも来店してもらいたいですね」と意気込む。

浅水コミュニティ運営協議会



「ゆづるの里」の人気メニューは「天ざる」。安全・安心な浅水産の野菜を使った天ぷらは、素材を生かした優しい味。料理人は、その日によって変わるが、自慢の味は変わらない。

協働のカタチ

市民と行政の協働には、さまざまなカタチがあり、個人だけではなく民間団体もそれに含まれる。地域コミュニティ、NPO法人や民間団体など、地域づくりに関わり、先進的に取り組んでいる団体から、今後の協働に必要なことを探る。



花田真さん
登米祝祭劇場館長

市民、行政と三位一体で文化創造

（公財）登米文化振興財団は、06年から登米祝祭劇場の指定管理者として、施設の管理、運営をしている。それだけではなく、市文化創造プラン事業を受託し、同財団ならではの地域と一体となった、芸術文化を発信している。

その柱となるのが、登米市民劇場「夢フェスタ水の里」とミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」の2つ。どちらも、キャストから裏方まで、市民が中心となり、約1年をかける準備。毎回千人を超える観客が訪れ、好評を博している。「夢フェスタ水の里」は、9町から題材を得ています。昨年度は豊里町が題材地。電神をモチーフに、豊里町独自の風土を表現したところ、豊里小から「学習発表会で児童たちが演じさせたい」と連絡がきました。二つ返事で了承しましたと、ほほを緩める花田館長。「市民と共に活動してきた成果。これからもそれは変わります」。

公益財団法人登米文化振興財団



文化創造プラン事業の2本柱、「夢フェスタ水の里」(写真上)と「ドリーム☆キッズ」(写真下)。どちらもオリジナル脚本で、本市の歴史や文化、風土が織り込まれている。



佐々木信義さん
同推進協議会長



川谷清一さん
豊里地区集落支援員

新しい交流事業で地域内つなげる

レゲエライブやちんどん公演、上方落語会、ランニングバイク体験会など、これまで市内ではあまり聞きなれない催しや事業で、交流人口を生み出している。「豊里は、残念ながら目玉になる観光資源には恵まれていません。しかし、外からの文化を受け入れる土壌があるので、みんな喜んで参加してくれています。事業は、老若男女用をそれぞれ準備しました」と佐々木協議会長。

豊里コミュニティ推進協議会は2012年に設立。それまでは、コミュニティ活動をとりまとめる組織がなかった。川谷支援員は「まずは、交流事業で事務局職員顔を皆さんに覚えてもらうこと、地域とつながることを意識しました。来年度からは、交流事業に加え、震災復興支援活動に関わった経験を生かして、高齢者や地域の見守り・ケア活動を本格的に始動させていきたい」と思いを語る。

豊里コミュニティ推進協議会



1年前に始まった歌謡喫茶(写真上)は、毎回40人近い住民が集まる人気事業に成長。夏祭り(同中、下)では、若者に人気のレゲエライブを企画し、200人以上の若者が詰めかけ大盛況。

市民活動の一翼を担う団体がNPO法人で「各々の目的達成のために組織された非営利活動団体」として、多様な活動を展開。奉仕活動に限らず、収益事業も行い職員給料等の諸経費を引いた利益は、次の活動資金に。故郷まちづくりナイン・タウンなど「まちづくり」が目的のNPO法人は、経済や福祉など、人々が住みやすい環境をつくるため、多くの分野で研究・調査・実践している。地域づくりやイベントに限らず、仕事で提携して有効な取り組みが期待できる。協働のもう一つの形が指定管理者制度。これは、行政が公民館や体育館などの公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業や財団法人、市民グループなどに担ってもらうことだ。

この制度は、行政が一定の経費を支払い、事業収入は全て団体のものとして取り扱われる。団体の努力次第で、より多くの収入を得られる。行政にとっては、民間のノウハウを活用した施設管理が期待でき、双方にメリットがある。現在市は、登米祝祭劇場、公民館、体育施設や斎場など、約140の施設を指定管理している。

民間の知恵や事業力など活力生かし協働を展開

各地域の地域づくりは、コミュニティ組織が主体となり、地域内の話し合いによって計画を策定し展開。14年度から事業を展開している、浅水コミュニティ運営協議会(以下、浅水)と豊里コミュニティ推進協議会(以下、豊里)は、全く違うアプローチで地域づくりを進めている。

新しいことを始める際、これまでになく取り組みたいもの。浅水は、合併前から取り組んできたことを事業計画に掲げ、実施している。「自分たちができることは、行政がやってきたことも自分たちで」をモットーに、行政と連携し、独自で空き家対策事業などを進めている。

逆に豊里は、観光資源の乏しさを、アイデアでカバーし、他にはない取り組みで、多くの交流人口を生み出している。古くから、豊里町は水害に苦しめられ、伝承的地域財産が少なかつた。しかし、石巻市圏などの人的、文化的交流があり、他の文化を受け入れる土壌が培われた。マイナスをプラスにする地域づくりを実践している。